

誕生寺 七不思議



1、御影堂の宝珠

みえいどう

ほうじゆ



他の寺院建築には見られない。
本堂（御影堂）の屋根の上、中央に宝珠
が置かれている。
西方に位置する本堂は参拝者が浄土（本
当の幸せ）を望むことを意味している。

2、人肌のれん木 （客殿）



勢至丸（法然上人）15歳のぬくもりを
今でも保っていると言われている。

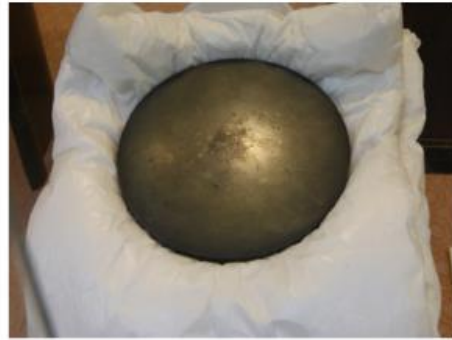
3, 逆木の^{いちよう}公孫樹
(境内)

• 法然上人 (15歳) お手植えの公孫樹。杖にしていた枝を旅立ちの日に根を上に挿したところ、根がはうように伸びたと言われている。



はたうじきみ みかがみ
4, 秦氏君・御鏡
(宝物館)

• わが子との別れを悲しみ、一粒の涙がこぼれ落ちた。それ以来顔を写さなくなった。



いしぶつだいし
5, 石仏大師 (本堂脇檀)

• 天正年間に川で光る石を当時の住職が見つけた。石を拾い上げると光は消え本堂(法然上人)の首がうなだれている姿にみえた。不吉な予感がし、本堂を井戸に隠した。寺が襲撃され御影堂は、破壊されたが本尊は無事だったという。

くろ かしら
6, 黒こげの頭
(本堂脇檀)

浪花の文楽座で火事があった。翌朝、焼けあとを見に行くときすべての人形が焼けた中で法然上人の頭の一部のみ残っていた。それ以来、文楽座で法然上人の人形劇は行われていない。



むく みえい
7, 椋の御影
(客殿)

- 生まれたとき白幡がとんできて椋の木にかかった。そして、その椋の木が枯れたとき、法然上人のお姿が天にのぼったという。

